

教科・領域教育学専攻

社会系コース

M08167D

森本晃弘

1 研究の目的

歴史学習では、一般的に教科書に則った全体史中心の学習が展開されている。その理由として、歴史学習では、日本の歴史の変遷を理解しなければならないことがいえる。しかし、日本の歴史という大きなスケールの歴史だけでは、生徒が実感を持って歴史を考察しがたい。そのため、歴史学習では、歴史事象を全体史の視点だけでなく、身近な地域の歴史（以下、地域史と記す）の視点からも考察する必要がある。地域史を取り扱う根拠としては、全体史との共通性や異質性、地域の歴史を踏まえて各時代の特色を抽出しやすいことが挙げられる。地域史を取り扱った実践は、非常に多い。しかし、これまでの研究では、地域史を取り扱った実践を「地域史を教授するねらい」や、「全体史との関連」に基づいて類型化されていない。そのため、地域史学習の傾向を踏まえて、望ましい授業モデルを提示するに至っていない。本研究では、類型に基づいて授業実践を整理し、社会科の歴史的分野で、生徒が自分たちの地域に着目し、全体史と地域史の関連を探究する授業の開発を行う。

2 論文構成

序章 研究の目的と方法

第Ⅰ章 中学校学習指導要領に基づく社会科歴史的分野の性格と課題

第1節 中学校学習指導要領に基づく社会科歴史的分野の性格

第2節 中学校学習指導要領に基づく社会科

歴史的分野の課題

第Ⅱ章 地域史との関連を視点にした中学校社会科歴史的分野の授業実践の類型と構成

第1節 地域史との関連を視点にした中学校社会科歴史的分野の授業実践の類型

第2節 地域史との関連を視点にした中学校社会科歴史的分野の授業実践の構成

第Ⅲ章 地域史との関連を視点にした中学校社会科歴史的分野の授業モデルの開発

第1節 単元「近世の日本」の授業モデルの開発

第2節 単元「現代の日本と世界」の授業モデルの開発

終章 研究の成果と課題

3 研究の概要

第Ⅰ章では、平成20年版中学校学習指導要領に基づく社会科歴史的分野のカリキュラムの性格を明らかにし、その上で課題を提示している。社会科歴史的分野においては、各時代の特色をとらえる学習が求められている。地域史に関しては、歴史の学び方を学習する手段として取り扱っている。そのため、歴史学習では、地域史の流れと全体史の流れを関連付ける必要がある。

第Ⅱ章では、前章を受けて地域史を関連付けた授業実践を類型化している。類型化の方法は、地域史を教授するねらいを視点にした類型と、全体史と地域史との関連を視点にした類型である。まず、各実践を地歴融合型と歴史単体型に

類型化する。地域史を教授するねらいを視点にした類型では、興味関心重視系・思考育成重視系・調査活動重視系・知識習得重視系に類型化している。全体史と地域史との関連を視点にした類型では、ズームアップ系（全体史から抽出した概念を地域史の内容にあてはめる展開方法）・ズームバック系（地域史を学習した上で、地域史で取り扱った歴史事象の原因追究や歴史事象の相対化について全体史の視点から考察する展開方法）・ディープフォーカス系（歴史事象について全体史と地域史を対比し、相違点を明らかにする展開方法）・フルショット系（地域史の内容に特化した展開方法、他の単元との関連有り）・フルショット系（地域史の内容に特化した展開方法、他の単元との関連無し）に類型化している。それぞれの授業実践の類型を整理し、授業実践の構成について特徴を示している。類型化の結果、地域史を取り扱った歴史学習では、思考育成を重視し、単元の中で上記の4つの系統に基づく「全体史と地域史との関連」を組み合わせる授業構成が望ましいことがいえる。

第Ⅲ章では、地域史と全体史を関連付けた授業展開で課題追究的な学習方法を目指す授業モデルを2事例開発している。1事例目は、大項目「近世の日本」の内容について授業モデルを開発している。本単元は、1時：ズームアップ系、2時：ズームバック系、3時：ズームバック系、4時：ディープフォーカス系、5時：フルショット系で授業を展開している。本時では、話し合いの活動を取り入れながら生徒が課題を見つけ、課題を追究する授業構成を設定する。身近な地域の歴史から江戸時代の河内の人々の様子を把握し、幕府や他地域との関連を通じて江戸時代の大きな流れを大観する授業を開発している。2事例目は、大項目「現代の日本と世界」の内容について授業モデルを開発している。本単元は、1時：ズームアップ系、2時：ズームアップ系、3時：ディープフォーカス系、4時：ズームアップ系、5時：ズームバック系、6時：フルショッ

ト系で授業を展開している。本時では、学習の後半に話し合いの活動を取り入れている。生徒が、本時で学習した内容を解釈し、説明できるかという点に注目する学習でもある。身近な地域の歴史から日本や世界の人々の様子を把握し、東大阪の歴史の変遷と国際化との関連を通じて現代史を大観する授業を開発している。

4 成果と課題

本論文の成果として次の3点が挙げられる。

- ① 平成20年版中学校学習指導要領社会科歴史的分野において、変更になった点と、地域史を全体史と関連付けることの必要性を明らかにすることができた。
- ② 類型の型は、歴史単体型が多いという傾向を表した。類型の系統の場合、地域史を教授するねらいを視点にした類型の系統では、思考育成重視系が多いことを示した。全体史と地域史との関連を視点にした類型の系統では、ズームバック系が多いが、各系統を単元内で関連させる必要性を提示した。
- ③ 類型の結果、思考育成を重視し、単元内に全体史と地域史との関連について各系統を組み合わせた授業実践がなされていなかったことが明らかになった。そのため、上記の課題を克服する単元を2つ開発した。

本論文の課題として次の3点が挙げられる。

- ① 今後、単元全体の詳細な授業の流れを明確に示す。
- ② 本研究では、地理的分野とのかかわりについて類型したため、地理的分野との関連を深く追究する。
- ③ 今後、本研究において開発した授業モデルを実践し、より実用性のある授業モデルにする。

主任指導教官 中村 哲
指導教官 中村 哲